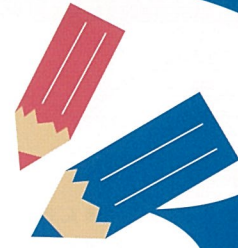


いのち

じゅ ぎょう

命の授業



子供たちの社会から「いじめや不登校をなくしたい」「自殺をなくしたい」
そんな思いから「命の授業」は始まりました。

子供たちの心と可能性を信じ、持続可能な社会の実現のため、

**本気で語り掛けることこそ、
大人の責任と考えました。**

「20数年間、環境活動に携わってきた経験から、それまでの環境教育が方法論に終始し、『何故大切なのか』という問いかけに欠け、『命』とのつながりも軽視されていると感じておりました。また、環境を始め、人権、貧困、紛争、自殺、不祥事等の数多くの社会的課題が、大人の社会の映し鏡である子供の世界にも多大な影響を与えていることに気づきました。そして、それらの社会的課題に目を向けた時、全てに共通するものとして、『命』が見えてきました。子供たちに『命』を語る重要性がここにあるのです。」と、CSR推進室の若尾久は語ります。そして、「全ての社会的課題を解消し、持続可能な社会を実現していくためには、子供たちに方法論を教えるのではなく、その根幹にある『命』について本気で語ることで、それによってやがて社会を担う子供たちにダイレクトに変革をもたらすこと、それしかないと確信しました。この思いから2007年に始めた『命の授業』を通して多くの子供たちが、命の大切さ、生きる意味、そして生きる価値に気づき、成長する姿を見てきました。これからも、子供たちの成長のため、子供たちの真の幸福のため、そして持続可能な社会実現のため、本気でこの活動に取り組んでいきたい。」と、自らの授業のテーマの根幹について、若尾は熱く語ります。



CSR推進室
若尾 久

